



Facebookはじめました
今すぐアクセス!!



第44号

平成28年11月15日発行

まきのはら 議会だより

静岡県牧之原市議会



- 平成27年度の決算を認定
- 8議員が市長と激論!!(一般質問)
- 議会への市民の評価は?(市民アンケート結果)

『共に支える』

紅林 敏夫さん(波津区) 撮影

平成27年度全ての決算を認定

9月定例会

9月1日～9月30日

一般会計歳入合計：211億2217万円
歳出合計：201億8896万円

提出件数				
議案 (予算)	議案 (条例)	議案 (その他)	諮問	専決
3	—	1	1	—
認定	同意	報告	議員 発議	請願 意見書
7	2	—	—	—

今定例会では、議案14件が提出され、全て原案どおり可決・認定されました。
平成27年度各会計決算の認定では、両常任委員会での審査を行う中で、市からは財政力の目安となる各指数の良化が報告され、財政状況については改善されてきているとの説明がありました。
一般会計補正予算は、小規模保育所整備への補助金や、予防接種の定期化など、子育て対策にかかる事業が主なものでした。

件名		結果	概容
諮問	一 人権擁護委員の候補者の推選について	適任	任期満了に伴い、後任の委員として「向笠恵子」氏を推選するもの。
決算認定	総 平成27年度牧之原市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	歳入決算額：211億2217万3496円 歳出決算額：201億8896万5277円
	文 平成27年度牧之原市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	歳入決算額：64億7819万2713円 歳出決算額：61億991万7827円
	文 平成27年度牧之原市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	歳入決算額：4億1235万6747円 歳出決算額：4億1158万8547円
	文 平成27年度牧之原市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	歳入決算額：42億327万3436円 歳出決算額：40億2687万1756円
	総 平成27年度牧之原市土地取得特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	歳入決算額：1億3248万1206円 歳出決算額：1億3248万1206円
	総 平成27年度牧之原市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	歳入決算額：1226万7699円 歳出決算額：1157万6484円
補正予算	総 平成27年度牧之原市水道事業会計の利益の処分及び決算の認定について	認定	収益的収入決算額：10億6351万8561円 収益的支出決算額：10億816万6587円 資本的収入決算額：3億3606万4800円 資本的支出決算額：5億9236万9132円
	一 平成28年度牧之原市一般会計補正予算（第2号）	可決	1億5304万3000円増額し、一般会計予算を197億6875万4000円とするもの。
	一 平成28年度牧之原市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	可決	3490万1000円を減額し、特別会計予算を60億7367万9000円とするもの。
同意	一 平成28年度牧之原市介護保険特別会計補正予算（第1号）	可決	1億7340万1000円増額し、特別会計を44億6016万5000円とするもの。
	一 公平委員会委員の選任について	同意	任期満了に伴い、後任の委員を「山本坂衛」氏とするため同意を求めるもの。
他決	一 教育委員会委員の任命について	同意	任期満了に伴い、「大石幸雄」氏を再任するため同意を求めるもの。
	一 津波避難タワーHブロック設置工事の請負契約について	可決	契約金額1億7820万円で㈱加藤組と契約するもの。

総 総務建設委員会へ付託された案件 文 文教厚生委員会へ付託された案件



高校生が主体の地域リーダー育成プロジェクト

「講師謝礼費」が増額補正された。総額462万6000円の予算の内
容は
(名波喜)

自治基本条例推進費
166万1000円
増額

地域活性化
プログラム普及啓発
事業について

平成28年度
一般会計補正予算
(第2号)

道路新設改良費
714万4000円
増額

市道静波74号線整備
について

地域リーダー育成プロジェクトの全国モデルとして文部科学省の委託事業(国負担)で実施するものである。

見直しの機運はあるが、現状はペナルティを外すということにはなっていない。

市が行う子ども医療費助成制度により国の負担金が削減(320万円)されるがペナルティの見直しの動向はどうか
(藤野)

平成28年度
国民健康保険
特別会計補正予算
(第2号)

「牧之原市生垣づくり補助金」について説明し利用を奨めたい。

津波避難のための道路拡幅に合わせ、多くの方がより安全に避難できるようにブロック塀倒壊による道路狭窄の可能性を少なくすべき
(平口)

市政に対する
総括的な質疑

行政報告内で意向が述べられた、光ファイバ網の活用方法などを調査研究する推進本部の設置時期と構成は
(平口)

すでに設置をした。構成は市長以下、各部の部長など。下部組織も編成されている。今後は庁外からのメンバー招聘も検討をする。



整備が進む光ファイバ網

賛否が分かれた議案の採決結果												
結果	平口	大石健	藤野	大井	名波喜	植田	村田	澤田	鈴木	太田	本杉	小杉
○：賛成 ●：反対												
[認定第1号] 平成27年度牧之原市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	—
[議案第50号] 平成28年度牧之原市一般会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	—



臨時財政対策債について当初発行計画5億円を3億円とした。財政規律維持は当然であるが、茶業など農業関連のための予算化や県内で2番目に高い国保税の引下げの財源として活用すべきであった。
(藤野)

目的の整合性、事業の費用対効果、発注の正当性の観点から審査を行った結果、執行は適切であると判断した。財政全体を判断する連結実質赤字比率は基準を下回っており、健全な運営であり賛成する。
(村田)



今定例会もサーフィン関連シャツを着用

平成27年度
一般会計歳入歳出
決算の認定について

議案に対する
主な質疑・討論

9月5日 総務建設委員会 委員長・副委員長の辞任要求の 動議が可決されました

9月5日(月)に開催された総務建設委員会で、委員会の冒頭、太田佳晴委員より「委員長・副委員長の辞任要求の動議」が提出された。動議は成立したため、内容について審議が行われた。

【提案理由】

1年間の委員会運営の様子を見て、調査研究事項のとりまとめが空転しており、現在の総務建設委員会はかつてない異常な混乱状態が生じている。このままの状態では新年度の予算編成にも大きな影響を持つ決算審査に臨むことは大きな不安を感じ、残された1年余の今後の委員会運営の在り方についてもそれ以上の心配をしている。まずは、委員会運営を正常な状態に戻すことが必要である。これは市民から付託されている議員・委員にとっては、解消しなければならない大きな問題と捉えている。新体制で総務建設委員会の活動を進めることが議会運営全体への責任、市民への責任を果たすことにも繋がると考え、委員長・副委員長の辞任を望む。

提案理由の説明後、質疑・討論を経て採決を行った。採決の結果、委員長・副委員長共に「辞任要求の動議」は可決。それを受けて澤田隆弘委員長、村田博英副委員長から辞任願が提出され、採決を行った結果、許可され辞任した。

委員長・副委員長の辞任に伴い、新委員長・副委員長の選出を行った。選挙の結果、新委員長に大石和央委員が当選し、副委員長に村田博英委員が再選された。

新旧委員長あいさつ

志半ばで総務建設委員長の職を辞することとなりました。委員会が空転した責任は感じていましたが、自分なりにこれまでの取りまとめを行い、全力で職務を全うする覚悟でした。突然、動議が可決され、責任を取ることとなりました。あまりにも急な展開にあ然としましたが、これからは一委員として、心機一転頑張ります。

旧総務建設委員長 澤田 隆弘

前委員長の後任として、委員会の所管事務調査である耕作放棄地対策等「魅力あるまちづくり」の政策提言に向けて、取りまとめていく所存であります。また地方分権による地方議会の役割や責任が増えています。市民のみなさんの意見や要望を聞きながら、その一翼を担っていきたいと考えます。

新総務建設委員長 大石 和央

副委員長あいさつ

委員長と共に一旦は辞任しましたが、選挙にて私は再任されました。耕作放棄地の利活用をテーマに進めている委員会ですが、調査研究を丸一丸となって取り組まなければ良い答えが出せないテーマであります。前委員長を補えなかった私の不徳に対する反省と、前委員長の志を忘れずに新委員長と共にこの難題に取り組んで参ります。

総務建設副委員長 村田 博英

動議【どうぎ】とは…

会議の途中で議員から提出される議案や意見。

牧之原市議会では、賛成者(提出者含む)が本会議は2人以上、委員会は1人いれば動議は成立し、成立すれば動議を議題としなければならない。

委員会の主な審査内容

総務建設委員会 文教厚生委員会

総務建設委員会

委員長 大石和央

付託された4議案について審査を行った。審査内容は次のとおり。

- 一般会計歳入歳出決算の認定について
- 土地取得特別会計歳入歳出決算の認定について
- 農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 牧之原市水道事業会計の利益の処分及び決算の認定について

【議員問討議】

・子ども医療費は中学3年まで無料化ということは前進した。ただ、国保は県内で2番目に高く、充分な対応がされていない。

・牧之原市の財政状況について、実質公債費比率、将来負担比率はよくなっているが、まだ県内ワーストの方。今年度の法人税も5億5000万円減っている。経常収支という観点からチェックしないと、一向に良くならないと考えている。

(このことについては、市の中長期的な財政計画を考える上か

ら、今後委員会で検討することとした)

・基幹電算システム用パソコン購入について、クラウド化を選択し、庁舎内の端末用パソコンをソフトと共に一企業で一括購入している。サーバ機(使用領域分)は仕方ないとしても、あまりにも随意契約が多く持続性の担保については一抹の不安を感じている。端末については、他業者でも安価に購入できる方法はないか模索する必要がある。

【反対討論】

・市民の立場に立った、寄り添った決算内容になっていない。特に国保の関係で、農業者など含めて悲鳴に近い声が入る。法定外の繰り入れをしつかり行つて、やるべきだった。

採決の結果、賛成多数で原案のとおり認定されました。

その他の3議案については、討論はなく、全員賛成で原案のとおり認定されました。

文教厚生委員会

委員長 植田博巳

付託された4議案について審査を行った。審査内容は次のとおり。

- 国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
- 介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

【議員問討議】

・各種施策を実施しているが、市民への認知度が高いとはいえない。多額の経費の割には成果があがっていないのではないかと。市が実施している健康診断、人間ドックへの参加者が少ないのではないかと。行政は対象者に適切な指導をしていくことが必要。

・国保の加入者の約半分が農業か個人事業者だが、各種事業などあまり周知されていない。また、後期高齢者や介護保険についても細かな配付物を読み切れていないと感じる。PRの方法をもう少し考えてもいいのでは。

・牧之原市は国保税が高い。国保でも介護保険でも健康を維持するためのことを実施しているが、仕組みを考えた方がいい。

・介護保険会計の基金について、第5期計画最終残高は8万円であった。保険料は抑えていかなければならないが、第5期は4400円で、第6期は5500円となった。決算連合審査での説明だと第6期の最終的基金残高は2億円、それを保険料へ反映すると数百円の低減しかなく、保険料が右肩上がりになってしまふ。次の保険料の調整をするような算段をしていかないとあがる一方なのでその辺を考えて研究をしないといけない。



3議案とも討論はなく、全員賛成で原案のとおり認定されました。

質疑応答

決算審査

予算執行をチェック！

平成27年度の決算審査は、9月16日、20日、21日の3日間行われました。決算審査では、税金がどのように使われているか各部署より事業ごとの説明があり、それを受け議員からの質疑となります

紙面の都合上、掲載する質疑は一部となりますので、その他についてはホームページに掲載される「平成28年9月定例会会議録（決算連合審査会）」をご覧ください。

～牧之原市各会計の歳入・歳出状況～

会計名	歳入	歳出
一般会計	211億2217万3496円	201億8896万5277円
国民健康保険特別会計	64億7819万2713円	61億 991万7827円
後期高齢者医療特別会計	4億1235万6747円	4億1158万8547円
介護保険特別会計	42億 327万3436円	40億2687万1756円
土地取得特別会計	1億3248万1206円	1億3248万1206円
農業集落排水事業特別会計	1226万7699円	1157万6484円
水道事業会計	収益的 10億6351万8561円 資本的 3億3606万4800円	収益的 10億 816万6587円 資本的 5億9236万9132円

一般会計

職員研修費について

時間外勤務の縮減のため、ワークライフバランスの研修は意味がある。職員の意向調査の要望に少しは配慮しているのか（中野）

尊重しているが全てに應えることは難しい。

公用車の管理費について

公用車47台のガソリンはどのように入れているか（鈴木）

相良庁舎の公用車は、相良石油商組合から購入している。榛原庁舎は公用車ごとガソリンスタンドを指定し、平等に給油している。

ビタミン2dayウォークについて

「ビタミン2dayウォーク事業」の約244万円は妥当か。2日間で行う理由、休日出勤の職員の人件費は（大石健）

2日間開催で、より多くの市内外からの参加者を呼び込める。職員はボランティアだ。



昨年の2dayウォークのようす

各種団体への負担金について

各種協会や協議会、研究会へ負担金が多くあるが、これらについて精査し、適切なもののみ計上しているか（植田）

予算査定時に精査し、適切なものを計上してある

移住定住促進事業について

移住定住促進事業の成果と環境づくりの考えは（大井）

移住体験ツアーの課題や意向確認などにより、ガイドブックを作成した。



移住体験ツアーでの稲刈り体験

今後、移住希望者に子育て環境など総合的な評価をしてもらうことが必要と考える。

温泉施設の管理者について

前指定管理者は施設で取扱う飲料、食材は地元の業者で納入していたが、管理者が代わり納入されなくなった理由は（澤田）

細かなことは分からないが、毎月管理者と施設の運営について会議を行っているので確認をする。



子生れ温泉会館の食堂

細江1号幹線について

修正設計はどのような設計内容か。細江1号幹線は20年来的懸案事

項であり主要道路の早急な改善を求める（村田）

安全対策についてのもの。道路については粘り強く交渉を進め、早急な改善に取り組む。

監査の意見に対して

「土木事業において、追加工事や設計変更については極力発生しないように」とあるが、今後はどうするか（小杉）

課内で十分検討し、業者や地域の実情を聞いて極力設計変更が発生しないよう努力する。



早期改善が望まれる細江1号幹線

中学校管理費について

今年度、榛原中学校ではピアノの弦が5度も切れている。平成27年度はどうだったのか。これら備品購入の要望に対し、どう執行されたのか（平口）



昨年度は2回張り替えた。要望には優先順位をつける。

国民健康保険特別会計

国民健康保険税について

国保税滞納数は、また生活困窮者への督促の方法について伺う（藤野）

滞納世帯は1070世帯。世帯の家計収支や分割支払、生活再建の可能性等を見きわめ、また他の部署とも連携して相談に応じている。

一般質問

問 放課後児童クラブの設備等の充実を

答 手狭な牧小・相小等の改善を検討

文部科学省は、来年度から10年間で公立小中学校の教職員の定数増、いじめや不登校への対応強化、貧困による学力格差の解消、指導教諭の配置等々、関連法の改正を目指している。教育現場が抱えるまさに課題とその対応策ではないか。未来を背負う児童・生徒が健やかに育つことを願い、牧之原市の学校教育の現状と課題、対応策等を質した。

事業であり条例化すべきだ。施設が大幅に狭いクラブがある。設備や職員は基準をクリアしているのか。児童支援員が安心して働き続けるためには待遇改善が必要と考える。支援員の賃金、雇用保険、労災保険の加入状況等は法定どおりか

要綱で定めていると承知するが再確認する。設備、職員、保険等は法定を満たしている。教室が狭い牧之原や相良小学校等については学校とも協議し善処したい。(質問終了後、要綱でなく条例を制定してある「旨の報告があった」)

郷土や自分を好きになる自己肯定感を持つことができれば教育を進めたい。いじめ防止に関する組織を設置し、学校だけでなく家庭や関係機関が連携・協力し、子どもの健全育成を目指す。教師が子どもたち一人ひとりに目と耳と心を傾ける教育を進めたい。



中野 康子



問 児童福祉法では、市町は放課後児童クラブの設備および運営について条例で基準を定め「従事する者及び員数は厚生労働省で定める基準を参酌するもの」と定められているのか否か。女性の社会進出に貢献する重要な



牧之原放課後児童クラブのようす

問 地方公共団体や学校は「いじめ防止基本方針」を早期に策定することになつており35市町のうち30市町が策定済みである。遅れている理由はないか。早期に策定すべきだ

問 「いじめ防止基本方針」は24市で全校公表である。当市は一部公表となつている。未公表の理由はなにか

答 今後、公表するよう努めていく。

答 市独自の定義を方針に盛り込みたく協議を重ねている。来年度の施行を目指し、12月議会に提案する予定である。

動画配信中！

白熱の論戦！全内容をご覧になるには…

牧之原市 議会中継

検索

平成28年9月第3回 9月定例会「一般質問」

1. 中野 康子

2. 植田 博巳

クリック!



市史料館にある田沼意次侯肖像画

植田 博巳



問 田沼意次侯生誕300年に向けて

答 地域活性化の契機とする

田沼意次侯生誕300年が3年後の平成31年に迎える。意次侯は、長い間「賄賂政治」の象徴とされてきたが、近年これらは根拠のないものと立証されている。不況の時代に景気を回復させ、人々の生活を豊かにし、幕府の財政難を救うなど先進的な経済改革を行った政治家と再評価され、書籍やテレビで取り上げられている。意次侯は、相良城を築き、現在に続く相良の街並みを整えたほか、港町としての賑わいを創出した。

問 生誕300年を契機に、歴史上の人物や文化財を多くの市民に知ってもらう社会教育や生涯学習により地域愛を育て、更に市内外、国外にも発信し、年間を通して観光客に来てもらうなど地域の活性化になると思うが

答 現在の金融政策、地方創生など当時、田沼意次侯が既に実施している。また、教科書に必ず出てくる人物であり、知名度の高さから、全国に発信できる良い機会が地域活性化の契機になる。

問 記念事業開催の考えは

答 歴史を通して市の魅力を発信し、地域愛を深め、歴史愛好家や国内外の観光誘客を図る事業を商工会、JA、観光協会や民間団体等と相談し検討する。

問 市の歴史、文化財へ

問 水道事業の効率化・支出低減対策は

答 広域化が必要・受水費用低減へ

水道企業団からの受水に頼っている。人口減少時代に入り料金収入の減少、更に、水道施設の耐震化や老朽管の更新など水道経営は厳しい状況にある。このことから、短期中長期的視点から費用の低減効果が期待される事項について質問した。

問 経営基盤の強化、事業の効率化などが図られる「水道事業の広域化」の考えは

答 長期的な安定経営を継続していくには広域化が必要で、関係市と検討している。

問 受水費用の低減についての協議状況は

答 県大井川広域水道企業団と受水費用低減対策を協議しており今後低減案が示される。

市の水道は、全て県様南水道及び県大井川広域

一般質問

問 広域連携取組み合意で市の対応は

中部5市2町首長会議において地方創生に取り組むため、連携中枢都市圏の形成を念頭にした議論を加速化させることについて合意したとのこと。また、先立って4市1町が水産物を活用した「産業活性化事業」を実施しているとの報告を受けている。

な地域になることについて確認したもの。今後は、各市町が連携可能な事業を検討し、再度年内に首長会議を開催し広域連携を進めていく。

「産業活性化事業」は、東京での消費者嗜好モニタリング調査、メニュー・観光コース開発、プロモーションの4部会で新商品等の検討を行っている。

問 5市2町で合意した内容と4市1町の「活性化事業」の進捗状況は

答 広域連携には、広域組合をはじめとして様々な手法・形態があったが、今回の合意は中枢都市宣言をした静岡市を中核としたポリセントリック（多極型）都市圏の形成により、一体的発展を目指し、圏域全体で人口減少に立ち向かい「稼げる」地域になること、安全安心

うとするもので、第1弾の取組み認定は、11月ごろの予定である。申請内容は、大井川流域から牧之原台地までの茶をはいれ、多様な相の食と美しい茶園景観などを活用し、観光客来訪促進で農林漁業の振興と地域経済の活性化を図るものである。圏域の来訪者受入能力の評価と動向について研究を深め、具体的なターゲットを設定し、多様な関係者連携により、ニーズに合致するサービス・商品を充実していく。

名波 喜久



答 この認定制度は、農林水産省が地域の食と農林水産業、特徴ある景観等の観光資源の魅力を海外に発信し、訪日外国人旅行者を誘客する取組みを認定することによって、インバウンド需要を農山漁村の所得向上に繋げようとするもので、第1弾の取組み認定は、11月ごろの予定である。申請内容は、大井川流域から牧之原台地までの茶をはいれ、多様な相の食と美しい茶園景観などを活用し、観光客来訪促進で農林漁業の振興と地域経済の活性化を図るものである。圏域の来訪者受入能力の評価と動向について研究を深め、具体的なターゲットを設定し、多様な関係者連携により、ニーズに合致するサービス・商品を充実していく。

問 国が本年4月に創設した「食と農の景勝地」の認定制度に申請した内容と取組み対策は何か

答 連携を必要とする行政課題と今後の考え方は

問 自治体間の財政負担や、関連市町のメリットある事業立てが必要であり、連携を積極的に進めていく。また、中枢連携都市圏構想による静岡市

との連携については、国の財政措置もあることから早期に実現できるように、圏域自治体と協議を進めていく。

○その他の質問

・「市内の農産品と生産農家の情報」を市のホームページで簡易に検索できる窓口の創設を



景観と産業を基盤とした広域連携を（太田浜から）

動画配信中！

白熱の論戦！全内容をご覧になるには…

牧之原市 議会中継

検索

平成28年9月第3回 9月定例会「一般質問」

3. 名波 喜久

4. 大石 和央

クリック！

大石 和央



問 サービスの縮小等はどう対応か

答 給付等の制限ならば策を検討する

介護保険制度は2000年度に開始された。以降は制度が再々改正され、複雑化して市民にはわかりにくくなっている。制度の問題等について質問した。

問 2014年の法改正について、まず介護認定において認定審査が基本だが、「基本チェックリスト」による判定も可能となった。安易な判断とならないか

問 安上がりなサービス提供を目指すなら問題である。ケアの安心安全サービスの質と量の確保、責任体制など問題は多い。担い手があるのか、いつまでに体制を作るのか

問 15歳から29歳までの介護者については、現在1名把握している

問 若者の進路や将来に影響する問題で、実態調査や対応をどのように考えるか

問 今後、市の社会福祉部門と合わせて、どのような対策が必要なのか検討する課題だと思う。実態調査の実施については、今後検討したい。

答 チェックリストによる判断は早期に介護予防のサービス利用につなげられる。認定申請希望者には申請手続きを行う。

答 地域のボランティア活動はあるので、その組織化や系統立ったものにしていく。また平成30年度には少なくとも立ち上げたいと考える。

問 厚生労働省では来年度の法改正を検討している。生活援助サービスや福祉用具レンタル等についてサービスの縮小や本人負担を検討している。現状と見直しによる影響は

問 福祉全体の支援体制が必要である。滞納・失業・不登校・借金など生活上の異常をいち早く発見して対応、支援することが求められる

問 市町村の裁量による介護予防の「地域支援事業」を実施するため、サービス提供を住民ボランティアやNPOに任せようとしている。問題・課題はないのか

問 厚生労働省では来年度の法改正を検討している。生活援助サービスや福祉用具レンタル等についてサービスの縮小や本人負担を検討している。現状と見直しによる影響は

問 若者の進路や将来に影響する問題で、実態調査や対応をどのように考えるか

問 納税相談の中で、生活困窮や多重債務など様々なケースによって、各支援につないでいる。

答 健康づくりを支援する個人・団体はあるが、継続的な支援サービスが可能か、人材があるのか課題である。また、ボランティア活動に対する有償・無償についての意識や有償での仕組みづくりの検討が課題。

答 市としても一律に軽度者のサービスや給付を縮小することは問題があると考え、今後の国の動きを注視していきたい。サービス等の現状平成27年度については、生活援助サービス利用者



一般質問

問 公共施設の管理・配置計画を問う



藤野 守

第2次牧之原市総合計画の重点プロジェクトの内の1つである「公共施設最適化プロジェクト基本計画」先導的な施設プロジェクト」の方向性について伺う。国は「公共施設等総合管理計画」の策定を全国の自治体求めた。これは公共施設の整理・統合を進めるものである。

問 「公共施設マネジメント基本計画」の進捗と方向性について伺う

答 相良・榛原庁舎はそれぞれ20年から28年で耐用年数が到来する。統合について現段階では具体的に決まっているわけではない。部課の配置である行政機能については庁内ワーキンググループにおいて調査し、複数案を

検討している。来年以降位置の検討と決定をする。基本は「今ある施設を賢く、そして空間や機能を効果的に使うことだ。両庁舎の統合については長期的視点として、また、高台への移転を含め総合計画の後期基本計画の中で決まる。現時点では未定。

問 榛原文化センター（ホール棟）の跡地利用について

答 建物の解体後は売却せず、更地として市が所有する予定である。利用については今後の課題である。



除却が予定されている榛原文化センター（ホール棟）

問 さざんかへの健康福祉行政の機能集約により手狭にならないか

答 デイサービスセンター「うたり」の移転に伴うスペースの見直しにより利便性の向上を図りたい。

問 片浜小学校の校舎利用についての考えは

答 市民活動の場として利用を考えている。コミュニティの拠点機能とすることを念頭におき、有効利用を検討している。地域の核として機能や地域振興のために、関係者の思いも反映できるようにしたい。予算にも反映させたい。両図書館の片小校舎への移転統合は建物の荷重の問題や教室として仕切られていることもあり、想定していない。2か所の図書館も庁舎機能に合わせ検討する。

問 国の「公共施設等総合管理計画」は基本的に

は公共施設の整理・統合を求めているが

答 20年で20%の床面積を減らすというものが、当市も自治基本条例推進会議より答申を受けて。今年度中に計画を出す。単純に整理、統合するというのではなく、市の活性化、耐震強度や利用する対象人口等の観点から検討していくことになる。

○その他の質問

・茶業振興策として茶輸出の可能性と見通しについて



大石 健司

動画配信中！

白熱の論戦！全内容をご覧になるには…

牧之原市 議会中継 検索

平成28年9月第3回 9月定例会「一般質問」

5. 藤野 守

6. 大石 健司

クリック! クリック!

問 五輪開催地招致はどうなったのか

答 12月までは全力を尽くす

問 2020年東京五輪で、サーフィンが追加種目となるのが決定した。しかし、同時に同組織委員会がIOCに対して開催地は「千葉県一宮町を提案した」ことが明らかになり、牧之原市の招致

ムードはすっかりしぼんだ。選定されなかった原因と理由、その責任をどのように考えるのか

答 主な要因は、選手村から競技会場までの移動距離・時間。大会実績や海岸環境、波の状況は同等の評価だった。

問 距離が理由になるなら、最初から結果は同じだ。これまでの活動の反省点、今後の着地点は

答 その時々で情報を収集し、最善の策を尽くした。12月の正式決定までに、牧之原市のセールスポイントである民間事業者による「ウェーブ・ブール構想」の実現性について、早急に関係機関に示せるように努力する。

問 遅すぎる。今年2月の構想公表以降、具体的な発表が何もない。大臣が替わっても直訴に行かない。落選と報道されて

も、抗議文も出していないが。

答 ご指摘は厳粛に受け止める。

問 市民が「大丈夫か」「無理だろ」と思っている構想に、組織委員会やIOCが乗ってくるのか

答 許可や装置の管理、水の確保など検討課題があり苦慮しているが、業者は「造りたい」と言っている。しっかりと検討して進めていきたい。

問 市長は「今回の官民一体の取り組みを契機とし、沿岸部の活力を取り戻すべく、サーフィンをはじめとするビーチスポーツやマリンスポーツなどの魅力発信とともに、海岸背後地を活用した空間の創出などの、新たな観光まちづくりに取り組む」と宣言した。具体的には



サーフィン議連で作成したポロシャツ

○その他の質問

・市内の津波避難施設の活用について

問 米国と中国の2カ国を対象に申請する。

答 10月中旬に、2カ国を対象に申請する。種目はマリンスポーツになると思う。宿泊施設は近隣市町と調整する。

一般質問

障害児や保護者の支援は

関係機関が連携し対応

障害児支援をどのように充実していくかは、市の福祉施策の中でも重要な課題の1つであると認識している。

支援策を障害児通所支援・入所支援の枠内でとらえるだけでなく、一般施策としての子育て支援も視野に入れる必要があると考える。

文部科学省では、平成29年度より障害のある子どもの支援体制を構築する市町を応援していく制度を整備する。

問 障害児支援の現状と課題は

答 障害児支援は、子どもの誕生から療育、施設等での支援を含めた就学大人になつての就労、社会参画まで一貫して行われるべきである。年齢と



ともに支援する形態が変化中、関係機関による生育歴等の情報共有を含めた支援の継続が課題となっている。

問 国の新たな支援事業を踏まえた今後の対応は

答 国の新たな支援事業が、国の施策として具体化した段階で検討していく。

病児・病後児保育は

平成29年度からの実施を目指す

問 病児・病後児保育の現状は

答 現在、市内の保育園の中で、合併後に新築した静波保育園など4園には、病後児保育室を設置しているが、いずれの園においても看護師が配置できないなどの理由により病児・病後児保育は実施できていない。以前実施したニーズ調査では、就学前の児童を持つ保護者から制度があれば利用したいとの回答があり、潜在的な需要はあるものと承知している。

問 今後の取り組みは

答 事業の開始については、このところ課題となっていたが、子ども子育て支援計画に掲げるとおり、来年度からの実施を目指している。実施場所としては、市内保育園で最も規模が大きい静波保育園を考えており、先ごろ行った指定管理者との



協議の中で、前向きに検討するとの回答をいただいている。
今後は、利用対象児童や利用方法など細部について決定する必要があるが、先進的に実施している県東部の自治体の方法を学びながら、利便性が高く、指定管理者にとっても取り組みやすい仕組みづくりを進めていく。

大井 俊彦



動画配信中！

白熱の論戦！全内容をご覧になるには…

牧之原市 議会中継

検索

平成28年9月第3回 9月定例会「一般質問」

7. 大井 俊彦

8. 平口 朋彦

クリック！

クリック！

平口 朋彦



放課後児童クラブの現状と課題は

放課後児童クラブ運営事業は、児童を持つ親への支援サービスである一方、一番の受益者は「子ども」である。まずは子どもの視点に立ち、安心して過ごせる生活の場となるように多様性を確保し、安定、継続性を有したものにしていくなければならない。

問 小学校終了後に適切な遊びの場、生活の場を提供し児童の育成を図れているか。利用者から寄せられているご意見は、

答 今の事例は当局として直接ご意見はいただいていない。ご指摘のようなことが過度にあるのであれば調べたい。

問 利用を途中でやめられた方もいると聞いているが、どういった理由か

答 4月以降に23人いる。多いのは高学年生で、家で留守番ができるなどの理由が多い。またクラブ終了が18時というのがネックとされた方もいた。

問 送迎に関して、親族および登録制となっている。迎えに行けない不安のあるときは、結局クラ

総合センター「い〜ら」の利活用

答 通告を受け、課内でも協議をした。事前に保護者から連絡を受け確認が取れば安全性は担保できると思われるので今後クラブ長と検討をしていきたい。

答 2008年に開館した相良総合センター「い〜ら」は、市内最大であり、デザインの秀逸さや音響の良さなど、皆から愛され親しまれている。将来的な展望をお聞きし、利活用促進について総合的に伺う。

問 目標利用率は、達成できているのか

答 前年対比で実績を上回ることを基準としている。平成27年度は69.9%で増加している。

問 きちんと設定をし、利用促進を進めるべきだが

答 当初のうたい文句が「東京のど真ん中においても評価を得る」といわれたホール。設備は一流だが、なかなか興行が成功する規模にないのも事実である。愛され使っていただけの満足感を第一義とし、補助金制度を設けている。



問 利用料金について平均的な設定とのことだが、利用率を上げるためには見直す必要もあるのでは

答 附属設備を1つずつ足し込んでいくと高額になるのも事実。ご指摘を受け、今後は部内でも関係者の声を聞きながら検討をしたい。

議会改革 特別委員会

牧之原市議会では 議会改革を進めています

市議会では、議会活性化を図るために、「議会改革特別委員会」を設置しています。
過日、開催された委員会では、「選挙公営費について」「政務活動費について」「会派について」の3点を協議しました。

【選挙公営費】

候補者の経済力に左右されない公平・平等な選挙や、若年層が立候補しやすい環境整備を目的として、選挙時の自動車代やポスター代等を市が負担するもの。県内23市のうち、牧之原市を含め、4市が未導入である。

【政務活動費】
議員が調査研究やその他の活動に必要な経費の一部として支給される費用。牧之原市議会は支給していない。なお、県内23市のうち、5市が未支給である。

（委員会での意見）

- ・必要ではある。ただ視察研修費を削るなど財政負担にならないようにすべき
- ・必要だが、全国的に問題視される中で民意は得られにくいと思う
- ・使途が不透明になることが危惧される
- ・透明化していくには、議員個人への支給は難しい
- ・財政状況からしばらく見送るべき
- ・定期的に政務活動費を議論すること自体難しい

協議の末、政務活動費の支給については見送ることで決定しました。

【会派】

議会内に結成される議員の同志的集合体。会派が結成されることで、議会の能率的な運営が図られる一方、公平・適正さに欠く会派間対立が生じるなどの可能性もある。牧之原市議会は会派制ではない。

（委員会での意見）

- ・前回検討時も、（1人の会派が多くて意味がない）との声があった
- ・人数が減っている中で必要性が疑問
- ・必要ではあるが、政務活動費や議会構成を考えると、改選後新たに検討してもらえれば会派制は市が誕生してから1年後に導入を検討したが、最終的に足並みが乱れた。そういった経緯も勘案する必要がある

協議の末、会派制の導入については見送ることで決定しました。

～これまで取り組んできた議会改革の一部を紹介します～

- **議会基本条例の制定**
市民に開かれた議会及び市民参加を推進する議会を目指して、平成21年に議会活動を行うあるべき姿を定めました。制定後、議会改革特別委員会内で条例の検証も行っています。
- **議会報告会の実施**
議員と市民とが自由に情報及び意見を交換する場として平成22年より実施。当初は、年1回2会場（2班体制）で開催し、現在は、年1回6会場（3班体制）で開催しています。
- **一般質問の録画配信の実施**
市民に議会をより知ってもらう・見てもらうために平成24年より配信しています。

一般質問 牧之原市 検索

議会活動

8/2
～
8/3

友好姉妹都市 長野県松川町を親善訪問

松川町と牧之原市は昭和61年に旧相良町と友好都市の協定を締結して以来のつながりで、牧之原市としても平成16年に再締結。さらに5年前から「災害時相互応援協定」も結び、これまで30年にわたる友好関係であり、議会も相互に交流を継続しています。

今年8月2日、3日と「松川町まちづくりの取り組み」および「議会への住民参加」についての研修と親善訪問を行いました。

松川町では、「いっしょに育てよう 一人ひとりが輝く 笑顔あふれるまち まつかわ」をまちづくりの将来像として、多くの人が「ちょうどいい」と感じる居心地よさ、自然や風景、豊かな風土に見守られ、人のつながりと住民の主体的な取り組みを守り育むことを未来につなげるコンセプトとしています。

この町の人々は、穏やかで優しい人が幸せに暮らし、一人ひとりが主役でその人たちが一緒にあって笑顔が絶えない町であるという印象を受

け、牧之原市も見習うべきことが多く有意義でした。

議会への住民参加については、広報紙は読まれない、特に若い人にはほとんど読まれていないことから、市民モニター制を採用し、読者開拓の視点として、女性を多くし、子育て世帯、中壮年、高齢者と計9人をモニターとしたことで、市民目線の紙面づくりができ、新鮮かつ市民が欲しい内容が構築できているなど議会だより編集の参考となりました。



笑顔が溢れる「松川町議会だより」

議会活動

8/23

「議会力のための『質問力』と 市民参加」をテーマに 議員研修会を開催



挙手制だと質疑が出にくいとの講師の意向で、付箋を使用しての意見交換を行いました

龍谷大学政策学部教授の土山希美枝氏を講師に招き、開催されました。テーマは「議会力のための『質問力』と市民参加」。議会での質問材料の見出し方、有効な回答を引き出すための論戦の展開、市民参加型の議会報告会に関する研修でした。いずれの内容も特に1期目の議員にとってはすぐ役立つ、有益なものといえます。

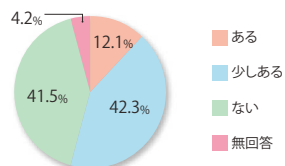
私たち議会内での主な活動の1つに質問や政策の提案ができる「一般質問」があります。一般質問での問題点は、質問のしつ放し、ベテラン議員の一般質問の少なさ、個々の議員の個人的技量に頼った質問が挙げられると言われています。一般質問は市政に関するすべてのことを質問できる機会です。しかし議員の意見表明や知見を集約し市の政策について問題点を論じ、提案できる機会でありながら十分に活かされていないということも挙げられました。また、議会報告会では今の報告型から市民との対話型への転換が必要との指摘

もありました。

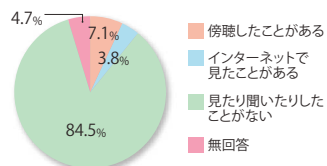
研修を通じて特に一般質問とは「市当局とともに市政の課題状況の共有と問題意識の共感を得ること」であり、「一般質問をしないうことは市民に損を与えることになる」との講師の言葉を真摯に受け止め、今後、課題解決に取り組んでいきます。

議会アンケート結果を お知らせします

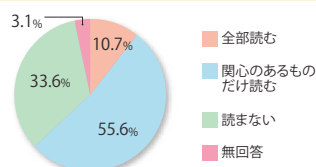
問 市議会に関心はありますか



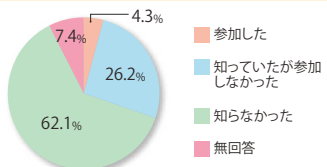
問 市議会の会議等を見たり聞いたりしたことはありますか



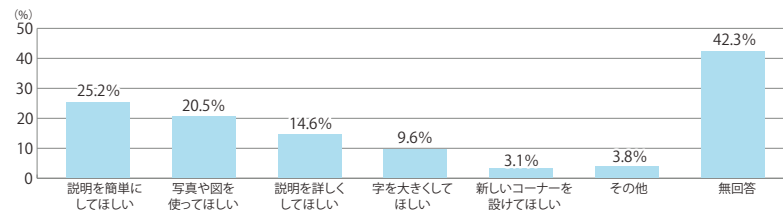
問 『まきのはら議会だより』を読んでいますか



問 議会報告会に参加したことがありますか



問 議会だよりへの要望について



市民の皆さんからのご意見を踏まえ、今号の議会だよりは、文字の大きさを一回り大きくし、文字間を広げました。

これからも議会広報特別委員会では、市民の皆さんに読んでもらえる広報紙を作成するために検討を重ねていきます。

【議会に対するご意見はこちら】

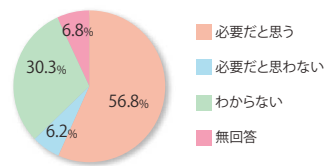
gikai@city.makinohara.shizuoka.jp
(0548)53-2650(TEL) (0548)52-1116(FAX)

②議会の広報誌である議会だよりを市民が読みやすいように文字を大きくし、親しみやすい写真やイラストを増やし、目線が自然と活字を追えるような配置を心がけていきます。発行日を楽しみに待つ市民が一人でも多く出てくるような思いで改善していきます。

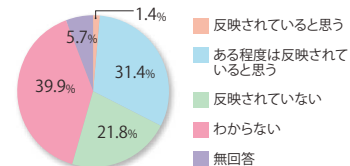
牧之原市議会では、市民に開かれた議会・市民参加を推進する議会を目指し、今後も議会改革を進めていきます。

市民の皆さんが市議会に対してどのように考えているかを調査するため、市の市民意識調査にあわせて「議会アンケート」を実施しました。市民意識調査と同様、16歳以上の市民を対象に、男女比率および年齢構成をもとに無作為で1399人を抽出。813人（有効回収率58.1%）からご回答いただきました。ご協力いただきありがとうございました。なお、アンケートの詳細はホームページにも掲載されております。

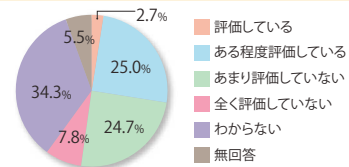
問 市政について議員との意見交換の場を持つことが必要だと思いますか



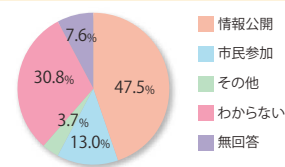
問 市議会に市民の声が反映されていると思いますか



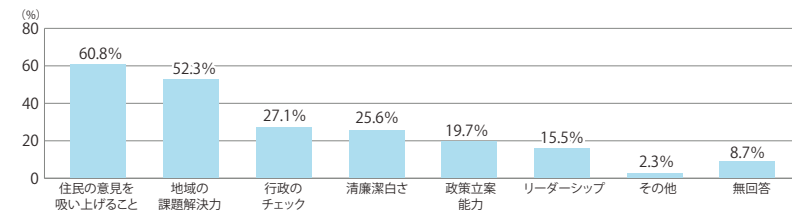
問 現在の牧之原市議会をどう評価していますか



問 今後の議会改革に何を期待しますか



問 市議会議員に何を望みますか



市民の皆様に牧之原市議会に対するアンケート調査を行いました。これは、今後の議会運営、議会改革の参考にすることを目的とするものです。

アンケート結果はグラフのとおりです。「議会に関心がある市民」は過半数ですが、「議会を傍聴したことがある市民」は1割、「市議会を評価している市民」は2割となりました。

また「議員との意見交換の場が必要だ」との意見は半数以上あり、議員に求められるのは「住民の意見を吸い上げること」が6割でした。

「まきのはら議会だより」を読んでいる市民は1割で、「議会報告会に参加している市民」は4%であり、「議会報告会を知っている市民」は3割という結果でした。

調査結果については、前回の市民アンケートとはほぼ同じ結果となりました。この状況を重く受け止め、まず下記2点の改善を進めていきます。

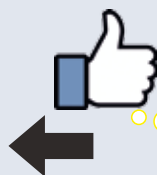
①議会報告会が一方的にならないよう市民目線で行うよう改善する。報告会ではなく、市民と語る場となるような会にしていきたいです。

市議会 Facebook を開設しました!!

市議会では、より多くの市民へ情報を発信し開かれた議会を目指すことを目的として、Facebookを開設しました。市議会のことを詳しく・わかりやすくお知らせしますので、ぜひご覧ください!!

○発信する情報

- ・本会議・委員会等の情報
- ・議会の活動報告
- ・議会のしくみや議会用語の解説



今すぐアクセス!!



<https://www.facebook.com/makinohara.gikai>
(市議会ホームページからもアクセスできます)

表紙写真募集中!!

「まきのほら議会だより」では、表紙写真を募集しています。牧之原市内で撮影された風景、史跡、イベントの写真であれば何でも歓迎です。自慢の写真をぜひ掲載してみませんか。

○応募方法

「写真のタイトル」と「撮影者の住所・氏名・連絡先」を記載の上、メールまたは郵送でお送りください。撮影された人物が特定できる場合は、必ず掲載許可を得てからご応募ください。

○宛 先

〒421-0592 牧之原市相良275
市役所相良庁舎4階 議会事務局(担当:北原)
☎53-2650
メールアドレス: gikai@city.makinohara.shizuoka.jp

ご不明な点がございましたら議会事務局までご連絡ください。



地域の皆さまのふれあい・繋がり、お祭りも終わりました。秋も深まりました。市民の皆さんに、何を行っているのか、何を行っていただくのか、各委員会などの情報提供のため10月から「フェイスタック」での情報発信を開始しました。この機会に、ぜひ皆さんの声を聞かせてください。

編集後記

議会広報特別委員会
委員長 大石 健司
副委員長 藤野 守
委員 村田 博英
植田 博巳
大井 俊彦
平口 朋彦

全日程自由に傍聴できます

12月定例会の日程

12月	2日(金)	提案説明
	12日(月)	通告質疑
	15日(木)	一般質問
	16日(金)	一般質問
	22日(木)	審議・採決

牧之原市議会定例会(一般質問等)については、ホームページに掲載されています。

「まきのほら議会だより」は再生紙を使用しています。